

「環境経営」国際シンポジウム —環境経営の世界的潮流— パネルディスカッション

コーディネーター

國部 克彦 (IGES 関西研究センター「企業と環境」プロジェクト・リーダー、神戸大学大学院経営学研究科教授、アジア太平洋環境管理会計ネットワーク (EMAN-AP) 運営委員)

パネリスト

マーチン・ベネット

(英国グロスターシャ・ビジネススクール 主席講師、ヨーロッパ環境管理会計ネットワーク (EMAN-EU) 代表)

加藤 三郎 (環境文明研究所 所長)

李 炳旭 (韓国 POSCO 研究所 環境経営研究センター長、アジア太平洋環境管理会計ネットワーク (EMAN-AP) 運営委員)

瀬尾 隆史 (安田火災海上保険株式会社 地球環境部長)

山本 和夫 (日本アイ・ビー・エム株式会社 顧問)

1. 発表表

1.1. 発表1 「韓国の環境経営：政府の政策と業界の取り組み」 ……49

李 炳旭 (韓国 POSCO 研究所 環境経営研究センター長
(イ・ビョンウク) EMAN-AP 運営委員)

1.2. 発表2 「エコファンドと『環境経営』評価」 ……55

瀬尾 隆史 (安田火災海上保険株式会社 地球環境部長)

1.3. 発表3 「環境経営」について ……65

加藤 三郎 (環境文明研究所 所長)

2. ディスカッション

2.1. 環境経営の促進要因と阻害要因

2.1.1. 環境経営の促進・阻害要因（山本）……………70

- (1) 企業の努力：「トップのコミットメント」「努力を継続する仕組み」「企業内でのコンセンサス」
- (2) 行政の支援：「法制度の整備」「税制」「エコタウン等の都市再生」
- (3) 市場の支援：「エコファンド」「環境格付け」
- (4) 阻害要因：被害者と加害者が不明確

2.1.2. 「環境経営」の特徴（ベネット）……………72

- ・ 長期的な視点に立った経営と、これを支える道具が必要。
- ・ 投資家や消費者などあらゆる利害関係者（ステイクホルダー）に対して、必要とされる環境情報を開示する「外向きの思考」が非常に重要。
- ・ 企業の情報開示の進展にともなって市民の環境意識が高まり、ひいては企業の環境パフォーマンスも向上。

2.1.3. 「環境経営」促進のための必要事項（李）……………75

- ・ 産業構造の変革、及び企業内のシステム変革
- ・ トップのコミットメント
中小企業への対応

2.1.4. 求められる社員の環境意識向上（瀬尾）……………77

- ・ 環境は、単に省エネや社会貢献という枠を超え、ビジネスそのものになっている。
- ・ トップの意識、社内システムに加えて、社員の意識醸成が不可欠であり今後は社員への環境教育がますます重要になる。

2.1.5. 環境対策はコスト要因ではない（加藤）……………78

- ・ 環境対策を単なるコスト要因とみなす意識が環境経営を阻害する。
- ・ 環境NGOは環境についての情報提供、社員に対する教育に大きな役割を担い得る。

2.2. 今後の環境経営にむけて ……………82

パネルディスカッション

○國部

ただいまから基調講演と2つのプレゼンテーションを受けて、「環境経営の世界的潮流」というテーマでディスカッションに入りたいと思います。

最初に、このディスカッションの趣旨と、ディスカッションのポイントについて簡単にご説明させていただきます。

今回のこのシンポジウムのテーマは「環境経営」、そしてディスカッションのテーマは「環境経営の世界的潮流」ですが、実は「環境経営」という言葉が日本で使われだしたのはそんなに昔のことではありません。私の記憶では、ここ2年ぐらいの間に急速に広がってきた概念だと思います。

しかし、この「環境経営」という言葉を的確にあらわす英語表現がないのです。環境経営を英語に訳す時に、2つの訳語の可能性があります。1つは「サステナブル・マネジメント」（今回の英訳）。もう一つは「エンバイロンメンタル・マネジメント」です。しかし、この2つの訳語と日本語で言う「環境経営」、この3つの相互関係が恐らく環境経営の世界的潮流を考えていく上で非常に重要であると考えられます。英語でいう「エンバイロンメンタル・マネジメント」という言葉は、例えば工場における環境管理システムなど、具体的、技術的、そしてシステムのなところに焦点が置かれます。一方、英語で「サステナブル・マネジメント」というと、マーチン・ベネットさんからご報告がありましたように、環境のみならず社会、経済の側面も加味した、より幅広い持続可能性を目指した経営という意味になります。

日本語で「環境経営」というのは、恐らくこのエンバイロンメンタル・マネジメントと、サステナブル・マネジメントの中間的な意味を持ち、単に工場レベル、事業所レベルのシステムの問題だけではなく、企業経営全体に環境の視点を浸透させようという考えだと私は思います。ただ、具体的な内容についてはそれぞれ見解が分かれるでしょうし、まさにその点をこれから議論していきたいと思います。

このディスカッションでは、「環境経営」、すなわちエンバイロンメンタル・マネジメントとサステナブル・マネジメントを包含した概念として、狭義なものから広義なものまで含めた内容について議論をしていきたいと思えます。

これまでにヨーロッパの動向についてマーチン・ベネットさんから、またグローバルに展開する企業、製造業の立場から山本さんにお話しいただきました。また、大前提として環境経営と、政策的な側面も含めて天野先生から基調講演をいただきました。

ただ今から、次にアジアに拠点を置いて、特に韓国について環境管理の側面

からご研究をされている李さんにお話いただきます。次に、環境に関わる金融の重要性はそれぞれのプレゼンテーションの中でも言及されていたとおりですので、金融の立場から瀬尾さんにお話をいただきます。そして環境というと、企業と国だけではなくやはり市民の立場、NGO、NPOの立場が重要ですので、NPOの立場から企業の環境経営に深く関わっておられる加藤さんからお話をいただきたいと思います。

李さん、瀬尾さん、加藤さんの順番で、環境経営、あるいはエンバイロメンタル・マネジメントやサステイナブル・マネジメントについてのご見解を、それぞれ10分程度でお話しいただきたいと思います。